

「以前は、そして今では」エペソ2：11－13 堀田修一 19・7・28

I 思い出す事の恵み。

「ですから、思い出してください（続けて下さい）」：11。2：4－10で語られた救いの素晴らしさを受けて→「ですから」。つまり、豊かな恵みで救われている事の賛美と感謝を、いよいよ生き生きと保つ為に、主と出会い、主に救われる以前の自分達の状態を（：11，12）忘れず、覚えていなさい、思い出しなさいと促している。私達は、神の恵みを忘れ易い。ですから、神の恵みなしの自分の状態と、そんな自分への神の大いなる恵み・主ご自身の事を覚える、思い出す（続ける）事は、非常に大切であり、聖書が教えている事です→「奴隷の家であるエジプトから出て来たこの日を覚えていなさい」出13：3。申命記15：15。

「主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな」詩篇103：2

II 主に救われる以前の私達の状態・姿

1. 肉において（生来、生まれながら）異邦人でした。すなわち、肉において人の手による、いわゆる割礼を持つ人々からは、無割礼の人々と呼ばれる者」：11。神の救いのご計画は、まず、ユダヤ民族を選ばれ、次いでユダヤ民族から出る救い主により、すべての国民に救いの福音が広がる事だった。神は神の民にしるしとして割礼を受ける事を命じられた。神は、外側の儀式ではなく、心の割礼（真の悔い改め）を求められた。しかし、ユダヤ人は、間違っただ選民意識を持ち、外面の割礼を誇り、無割礼の人々を差別するようになった。私達は主に救われる以前は、神の民ではなかった。この事をよくよく思い出し、認識する時、異邦人としての私達が、救い主の恵みによって格別な救いに入れられ、キリストご自身に接ぎ合わされた（ローマ6：5）恵み、霊的に結合された恵みの偉大さ、ありがたさを覚える事が出来る。※もし私が主と出会っていなければ？事件のニュースを見て思う事。他人事ではない。

2. 「そのころのあなたがたは、キリストから離れ」：12。以前、私達は、キリスト＝真のメシヤ、救い主から「離れ」罪、悪に近づいていました。真の救い主であるキリストを持たず、無関係の人生を送り、罪、悪との関係を持っていた。キリストについての知識、心での理解がなく、主との命のつながり、パイプである信仰もなく、まことの神との間を取り持って下さる仲保者がなかったのです。私達が、ある偉い人に、どうしても頼みたい事がある時、その偉い人と自分との間を取り持つ人がいなければ、会うことが出来ない。神は最も偉大なお方！実に仲保者、仲介者、贖罪者なるキリスト、救い主なくしては、神と私達とは、審判者と被審判者として立つのみの関係であり、その間には祝福も救済もあり得なかったのです。この事実を思い出すと今、キリスト、救い主、仲保者を持つ身とされている事の恵みの偉大さを覚え感謝します。

3. 「イスラエル（神の民）の国から除外され、約束（単数形：救い主についての約束）の契約（複数形：救い主の約束を含む族長達に与えられた諸契約）については他国人であり」：12。今は、私達は、神の計り知れない恵みにより、神の救いから除外されず、差別されず、神の救いに入れられています。感謝！

4. 「この世にあって望みもなく」：この世にあって私達は、真の救いの希望、変わらない裏切られない希望を持たず、悩み苦しみ、過去の後悔と将来の心配で心が縛られ、空しい人生を歩んでいました。よみがえりの命、永遠の命（永遠に神に愛され、神に生かされ、神と交わる事の出来る命）の希望もなく。しかし、栄光の望みである主（コロサイ1：27）に救われた今、永遠に続く希望をいただき、永遠に素晴らしい神とお交わりができるのです。

5. 「神もない人たちでした」：12。まことの神（万物の創造主・万物の支配者）を知らない者、私達でした。※私自身は、神なんかいらないと高ぶり、自分を心の王座に据え自己中心の生活をしていました。何かができる時、自分の力で出来たと勘違いをしていました。主を信じた今ならわかります。すべては神が下さる力で出来ているのであり、神に日々生かされている恵みを。神を求めることもせず（ローマ3：11）、自分の悟りで神を信じる事など、出来ない私達でした。しかし、神は、私達を心から愛し、私達に、救いも主を信じる信仰も、与えて下さったのです！日々、祈り伺い、抛り頼む真の神（私達を造り、命と目的・使命を与え、私達の事を完全に知り、愛しておられる偉大なお方）との交わりのない人生は、何と空しく、不安定な（真の土台のない・真の目的を見い出せない）人生でしょうか。毎日、真の神への祈りと生ける御言葉を読み味わえる事は当然の事ではなく、素晴らしい恵み！

Ⅲ 「しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今では」：13。

1. キリスト・イエスの中にあることにより」：キリスト・イエスにあって。ここでも鍵となる御言葉、恵みは、これです。つまり、私たち自身の罪故に、命の源（造り主）であるキリスト（救い主・神ご自身）から遠く離れていた・救いの外にあった私達が、今では、キリスト・イエス（真の救い主）の中に入れられた・靈的に結合された・一つの体とされた・接ぎ合わされたのです。真の望み・命をお持ちの主キリストと結合し、主からの命・愛・靈的栄養（愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制）が私達の心に流れているのです。何という恵み！※支配的ではなく、良く耳を傾ける愛の人、対話のある関係への恵み！

2. 「キリストの血によって近い者とされたのです」：13。私達は、本来、神に近づきたくても、自分の罪、汚れの故に、決して素晴らしい神に近づけない者でした。しかし、憐み豊かな神は、ご自身の方からクリスマスに、この世の私達のもとに、降りて来られ、聖い神ご自身に近づく道を用意して下さいました。「私たちは、イエスの血（私達の身代わりに十字架で死なれた・私達の罪の完全な償い・ご自身の血＝命という代価を支払い、私達を永遠の刑罰、滅びから買い戻して下さいました）によって、大胆にまことの聖所（神が臨在される所）に入ることができるのです」（ヘブル10：19）。あなたは、私は、今、神から遠く離れているのでしょうか？それとも、神の近くにいて、神と親しい交わりを持っているのでしょうか？「私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座（神の御臨在）に近づこうではありませんか」ヘブル4：16。私達は、主の十字架の恵みの故に、大胆（腹蔵のない・信頼による率直・信頼による喜ばしさ・確信）に神に近づいておりにかなった（ちょうど良い時の、時宜にかなった、タイムリーな）助けを受ける為に心から祈り求める事ができるのです。神は、あなたが、神に近づくのを待っておられます！教会福音讃美歌367をもって、心から神を賛美したい！